

循環器と血液の病気

心筋梗塞

違和感があれば
躊躇せず救急車を

心筋梗塞とは、心臓に酸素や栄養を送るための冠動脈が、血栓が



冠疾患科
おおやなぎみつまさ
大柳光正主任教授

詰まるなどして閉塞を起こし、心筋が壊死してしまった状態のこと。突然起こった胸部の痛みや圧迫感が特徴で、息苦しさや冷や汗、吐き気、血圧低下などが見られることもあり、意識不明に陥ることもある。「ただし、高齢の方や糖尿病を患っている方などは、胸痛がない場合もあるので注意が必要です」と話すのは、冠疾患科の大柳光正主任教授。肩や首の痛みなどで病院に行ったところ、心筋梗塞だったという患者さんもいるという。「左肩や首、背中のほか、あごや歯が痛む、左腕がだるいといった症状が出ることもあります。これらの痛みが15分以上続いたり、いつもとは明らかに違う違和感がある時は、躊躇せずに救急車を呼んでください」。

負担の小さい カテーテル治療

兵庫医科大学病院では、ほとんどの場合、カテーテルによる治療が行われる。これは、細長い管状の器具(カテーテル)を血管内に挿



循環器内科
ますやまとおる
増山理主任教授

した場合、すみやかにカテーテル治療に移ることができる。また、急性心筋梗塞や不安定狭心症といった心臓に関わる重篤な疾患を専門とするCCU(冠動脈疾患集中治療室)がそのすぐ上の階にあるので、医師や患者さんの移動がスムーズに行えるのも特徴だ。CCU部長を兼任する大柳主任教授は「循環器内科医が、救命救急センターのスタッフと連携しながら、24時間体制で迅速に治療を行えるというのが、兵庫医科大学病院の強みです」と語る。

原因は動脈硬化

動脈硬化が進むと、血管の内側にコレステロールなどからなるアテロームと呼ばれるドロドロとした粥状の物質がたまる。高血圧や喫煙、ストレスなどによって血管の内壁が傷ついてアテロームを覆っている膜が破れると、その部分直すために血栓ができ、これが冠動脈を詰まらせることで心筋梗塞が起こってしまう。

「まず、もつとも影響が大きいのが喫煙です」と、循環器内科の増山理主任教授は話す。「近年は、動脈硬化は10代から始まるといわれています。動脈硬化がそんなに進んでいなくても、アテロームがあれば喫煙やストレスの刺激で破れることがあります。20代で心筋梗塞を起こす方もいます。20代、30代で心筋梗塞になる方は、まずヘビースモーカーですね」。その他、高血圧や糖尿病、過剰なLDLコレステロールなどが、動脈硬化を促進し心筋梗塞を起すリスクとなる。これらの病気を抱えていたり、メタボリックシンドロームや肥満と指摘されていたりする人は、禁煙はもちろん食生活や運動習慣などを見直すことが

入して行う治療で、冠動脈の詰まった部分を内側から広げて血液の流れを回復させるもの。中でも、ステントと呼ばれる金属でできた筒状の網を狭窄部に入れることで、血管の内壁を押し広げたままにして血液の流れを良くするステント留置術がよく使われる。「カテーテルは足の付け根の血管から挿入するのが一般的でしたが、兵庫医科大学病院では手首から入れます。技術的には難しくなりますが、患者さんの身体への負担は非常に小さくて済みます」と大柳主任教授。患者さんは、1週間程度の入院で、自分の足で歩いて帰れるという。

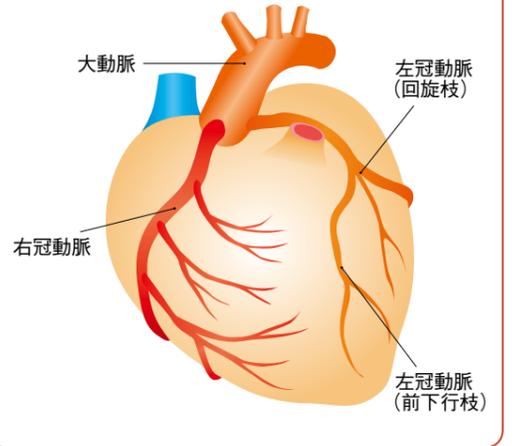
カテーテルでの治療が難しい場合や、治療したがいまいかない場合などには、別の部位から取った血管を、冠動脈の詰まった部分を迂回するようにつなげる冠動脈バイパス手術が行われる。開胸して行われるため身体的な負担は大きいですが、再狭窄などの再発リスクは少ないとされる。

地域全体で患者さんをサポート

「心筋梗塞を発症した人は、再発しないための二次予防も重要です」と増山主任教授。一度心筋梗塞を起こすと、血圧や血糖値、コレステロール値を一段と厳しく管理しなければならぬというえ、何種類もの予防薬を飲み続けることになる。

兵庫医科大学病院では、心臓リハビリ外来を開設し、専門看護師などによる栄養指導や運動・生活指導を通じて、再発防止に努める患者さんをサポートしている。また、病診連携を積極的に進めており、循環器に関して地域の開

心臓と冠動脈

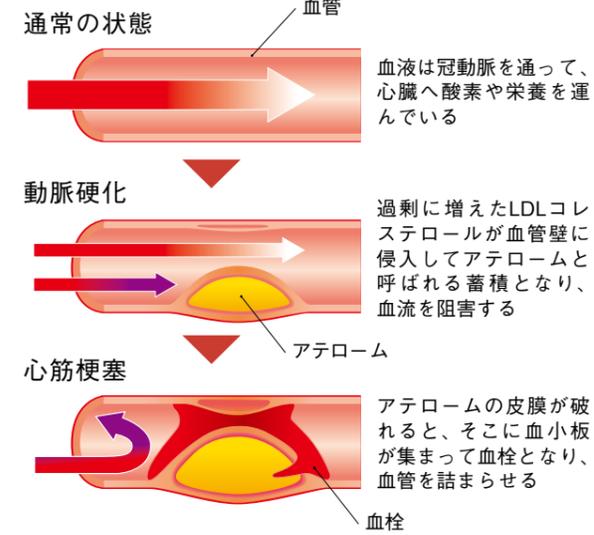


一刻も早い 血流再開が大切

心筋梗塞の場合、血流が止まっている時間が長いほど、生命の危険や後遺症の可能性が高くなるため、一刻も早く血流を再開することが必要になる。その目安は、発症してから120分以内、病院に到着してから90分以内とされる。2013年春にオープンした兵庫医科大学病院 急性医療総合センターでは、患者さんが最初に運び込まれる初療室とカテーテル治療を行うIVRセンターが同じフロアにあるので、心筋梗塞と判明し

業医などと診療情報を共有するシステムを構築しつつある。「治療履歴やCTなどの画像を共有することで、診療連携がスムーズになります。退院後は、近くのかかりつけ医とともに再発防止に努めていただき、何かあれば兵庫医科大学病院に来ていただくといった、地域全体で患者さんをサポートする医療体制が整っています」。

血管内の状態



では、動脈硬化の危険因子はど

がん

目・耳・鼻・口の病気

胃・腸・食道の病気

呼吸器の病気

骨・関節の病気

脳・神経の病気

皮膚の病気

肝臓・すい臓・胆嚢の病気

腎臓・泌尿器の病気

循環器と血液の病気

全身の病気

こころの病気

女性の病気

子どもの病気